

≫ お客様とともに (品質・顧客満足・取引先)

品質保証体制

T H Kは、お客様に安心・安全な製品をお届けするための取り組みを行っています。

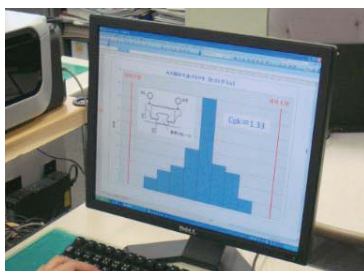
お客様に信頼していただける製品品質のために

T H Kでは素材の段階から完成品にいたる全ての工程内で統計的品質管理を用いた厳しい品質管理体制を構築し、お客様に安心してご使用いただけるよう努めています。

品質管理では統計的品質管理手法である工程能力指数※Cpk1.33を目標とし、お客様に高品質の製品を出荷できるよう努めています。

※ 工程能力指数：

工程がどれだけバラツキの少ない製品を作れるかの実力値を数値化したもので、Cpk1.33は社内管理値から外れる確率が10万個で3個以下です。



統計的品質管理
分析風景

お客様の安全のために

T H Kでは、RoHS指令をはじめとする法規制に対応するため、非破壊で分析を行う蛍光X線・FT-IR・吸光度計等の分析装置を導入して有害物質の調査を実施しています。製品に使用している部材や表面処理の皮膜についても定期的に検査を実施し、お客様に安心して製品をご使用いただけるよう努めています。



分析装置室

プライベートショー開催

T H Kでは、国内外の様々な業界の展示会に出展し、新製品の紹介から技術サポートに至るまで積極的な情報開示を行っております。しかし、地理的・時間的に展示会を見学できない方に向けた地域密着型のプライベートショーや直接お客様の事業所内で、課題解決に向けた応用技術を中心とした展示会を実施しております。



用途別にデモ機を展示

営業・業務職員の技術研修

2010年11月よりスタートした甲府工場実習は、
① T H K製品の基礎知識を学び、
② 製品が使用される状態を擬似的に再現し、
③ 組み付けや精度出しの方法を、自ら体験する場です。

参加人数は2013年3月までに当社営業・内勤業務をはじめ、代理店の営業の方も含め延べ351名に達しました。

2013年2月からは、三重工場実習も開始しました。お客様の要求に迅速にお応えできる体制作りを行い、更に高い付加価値の提供を行えるように実習内容を充実させていく所存です。



甲府工場での実習風景

白井相談役、日本機械学会部門功績賞受賞

この度、弊社相談役白井武樹は(社)日本機械学会より「生産加工・工作機械」部門の功績賞を受賞しました。

(社)日本機械学会は、技術社会の基幹である機械関連技術に関わる技術者、研究者、学生、法人の会員から構成され、機械に関連する広い学術の分野をカバーする21の部門と地域の活性化活動を中心に行う8つの支部が会員のための活動を行っています。この内の1部門「生産加工・工作機械」の部門長を、2011年4月から1年間勤め、積極的な活動を行ったことに対する表彰です。

「現在日本の工作機械業界は新興国の影響を受け外需比率が上昇していますが、高い品質を維持し多機能ニーズを持つと共に環境に優しいCO₂排出量の少ない技術を生み出し世界をリードしていく重責がある。そのためにも機械学会は世界からの情報収集に努め、活発な意見交換を行う場として欲しい」と白井は考えています。

THKとしても国内製造業の活性化を少しでも図れるよう、機械学会の活動を支援していく所存です。



表彰を受けた白井相談役

取引先とともに

THKでは需要地生産こそが最適地生産であるという考えのもと、グローバルでの製販一体体制の強化を図っています。そこで、海外での現地生産増加に対応するため、材料・部品の現地調達を推進しています。調達先を海外に確保することは、BCPの観点からも有効な手段となります。今後も品質の確保に留意した上で、価格と納期の優位性を重視し、調達先の選定と信頼関係の構築を進

めていきます。

また取引先に関する情報は、品質部門、環境部門、そして購買部門とそれぞれが管理しており、横の情報交換が難しい状況にありました。この度、取引先管理の向上と効率化を目的にデータベースを構築し、本社部門と工場部門間の情報の共有化も可能となりました。取引先におかれましても、様々な調査を複数の事業所から重複して依頼していたケースもありましたが、こちらの改善も進むこととなります。

改善事例発表会

「第2回関ヶ原町QCサークル発表会」が2013年2月に開催され、岐阜工場は幹事会社として運営に参加しました。また、製造1課組立グループが「標準品の3定(定位置・定量・定品)」をテーマに発表を行い、優秀賞を受賞しました。

このテーマは、組立現場の作業台上の定位置に定量部品を置き、常時整理・整頓を心がけ部品の取り違いをなくすことを目的としています。作業を実際に行った結果、①作業台上がコンパクトになる、②違う部品の取り違いミスがなくなる、③作業場全体が広くなり、④生産量の増加につながりました。

また、このQC活動を通じ、

- ①全ての作業で改善意識が高まった
- ②生産性向上と在庫削減につながった
- ③6S意識が向上した(通常の5SにSafetyをプラス)
- ④チームワークが良くなった

といった無形効果も得られました。

今後も自分達のQC活動を活発化させるとともに、今回の活動で得た知識や方法を他部門にも横展開を図り、生産性の向上につなげていきたいと思えます。



QCサークル発表会 優秀賞

» お客様とともに (顧客) Interview —お客様の声—

株式会社ニコン

1917年設立。日本を代表する光学機器・精密機器メーカー。「光利用技術」と「精密技術」を基礎とする、精機、映像、インストルメンツの3つの事業を中心に、多彩な技術・製品・サービスを展開されています。



熊谷製作所



精機カンパニー
半導体露光装置事業部
開発本部 第二開発部 第六開発課

左:主任研究員 蛭名 俊和様
中央:マネジャー 岡田 雅 様
右:主任研究員 合田 泰之様

半導体露光装置特有の特殊な仕様にも 真摯に対応してくれたことに感謝しています。

THKと取引されるようになったいきさつを教えてください。

私共の仕事は、半導体露光装置の設計・製造ですが、その半導体露光装置に使用する光学振動素子のダンパーとして、リニアガイドを探したことがきっかけでした。時期としては、ちょうど2000年頃からでしょうか。当時の同僚たちからTHKさんのリニアガイドには、非常に剛性の高い製品があり、工作機械の直動ガイドにおいてTHKさんが圧倒的なシェアを持っていると聞かされたことから、営業の方を紹介していただきました。

その後、照明光学系で切替機構が非常に増えたこともあり、最初のお付き合い以降は、LMガイドやボールねじ等、THKさんの製品をいろいろ使わせていただいています。

THK製品、THKという会社の
どのようなところを評価されていますか？

私共の所属する「精機カンパニー 半導体露光装置事業部」の開発・生産拠点は、埼玉県熊谷市にあるのですが、東京支店の方にご対応いただいています。相当の距離があるにもかかわらず、こまめに足を運んで丁寧に対応していただいていることは、強く印象に残っています。

また、半導体露光装置の照明系は、少しでも光に強弱のムラがあると微細なパターンの幅が狂ったりする非常に精密なものです。一方で、UVを照射すると硫酸アンモニウム、有機系シリコン等の

汚染物質がレンズに付着して曇ってしまうという問題があります。レンズが曇れば光にムラができてしまうので、ガイドにも通常のグリースや防錆剤が使えず、フッ素系グリースの使用と「ケミカルクリーン」という特殊な洗浄が必要です。こうした半導体露光装置特有の特殊な仕様にも、真摯に対応していただき、これまでに実現できなかったことを可能にしてもらう等、我々の厳しい要求に対しても、常にきちんと対応いただけるTHKさんは、信頼してお付き合いのできるパートナーだと思っています。



半導体露光装置 NSR-S622D

今後THKに期待することをお聞かせください。

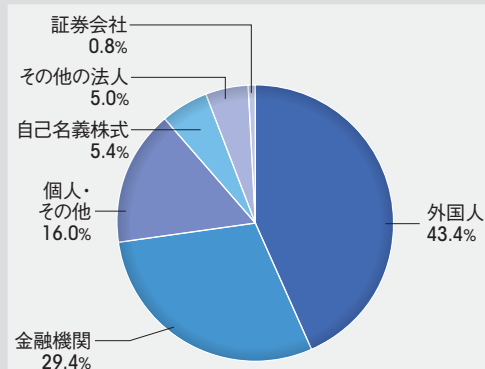
今後は、双方の開発部門同士の交流を深めて、より強固なパートナーシップを築きたいと考えています。技術的には、さらなる薄肉化や小型化によって製品レパートリーが増えることを期待しますし、さまざまな組み合わせによる駆動機構の提案等もあると嬉しいですね。二社による水平分業のような形で、カスタム製品の治具設計や制御、製造の拡大等に対し、お互いの技術を持ち寄り等、これからもWIN-WINの関係を継続していきたいと思えます。

▶▶ 株主とともに

IRイベント

年2回の決算説明会では、社長自らが業績ならびに戦略を説明する他、質疑応答の時間を十分に設け、経営に対する忌憚のないご意見をお聞きするようにしています。またスモールミーティングや個別取材等を通じ、より多くの投資家との対話に努めています。海外の機関投資家に対しても、電話会議による取材はもちろんのこと、アメリカ・ヨーロッパの投資家を毎年定期的に訪問する等して、国内外を問わずコミュニケーション機会の充実に努めています。

■所有者別株式分布状況(2013年3月31日現在)



IRツール

「アニュアルレポート」のほか、情報ツールとして「インベスター・インフォメーション(ファクトブック)」を四半期毎に発行しています。「IRホームページ」においては、法定開示書類の掲載はもちろんですが、「アニュアルレポート」や「インベスターインフォメーション」に加え、決算説明会資料等を日本語、英語の2ヶ国語で掲載する他、決算説明会の模様についても日本語および英語でビデオ配信しております。このように、投資家の属性や地域を問わない適正かつ公平な情報開示に努めています。



アニュアルレポート

株主総会

「開かれた総会」を目指し、1998年からは、より多くの株主の皆様にご出席いただけるよう、株主総会集中時期を避けた土曜日に開催しています。当社の経営をより多くのステークホルダーの方々にご理解頂けるように会場には見学席を設け、取引先をはじめとしたステークホルダーの皆様にもご出席いただいております。

2013年6月15日に開催しました第43期定時株主総会では、343名の株主の皆様にご出席いただきました。また、日ごろ目にする機会の少ない当社製品へのご理解を深めていただけるよう、半導体製造装置や工作機械等、最先端の技術に不可欠な部品を製造する装置から、私共が新規分野として開拓を進めている、免震装置、輸送用機器関連部品、ロボット開発部品等の使用例を中心とした展示会を開催させていただきました。



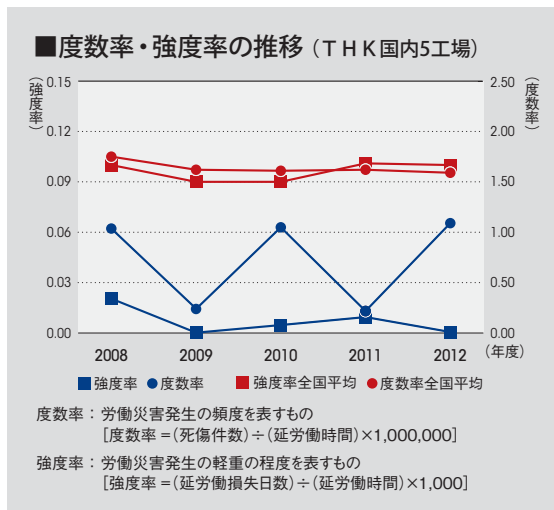
第43期定時株主総会



株主総会併催展示会

▶▶ 従業員とともに (安全・衛生)

度数率・強度率(無災害月間、PM2.5への取り組み)



THKでは従業員の安全な労働環境を実現するために様々な取り組みを実施しています。昨年度に引き続き「労働災害」と「交通事故」に対する従業員の関心と危機意識を高め、これらの撲滅に繋げることを目的として、2012年12月15日(土)～2013年1月15日(火)の期間を「年末年始無災害運動月間」と定めました。

またPM2.5の有害性物質から社員の健康を守るために、中国各拠点では大気汚染指数をチェックするサイトを公開して状況を把握し、指数の濃い事業所は、全社員にマスク配付を行うと共に、指数の高い日は、外出を控えるよう指示を出しました。日本からの中国出張者に対しては、全員に対してN95マスクの配布を行っています。

今後も従業員の健康をサポートし、安心・安全な職場作りを推進していきます。

大連工場の安全知識コンテスト

大連THKでは、2012年7月に専門講師を招いて、①安全知識の更なる普及を目指し、②従業員の安全意識を強化し、③安全生産と安全生活を確保するため、全社員を対象に安全教育のセミナーを行いました。

更に、安全知識への把握度合いを検証し、安全知識の学習を励行するため、9月下旬に「人々講安

全、安全為人々」をテーマに安全知識コンテストを開催しました。コンテストの内容は、①生産安全知識、②救急の常識と火災応急、③交通安全等の多岐に及んでいます。最終的に筆記試験とクイズコンテストの2つの選考結果、社内奨励として1等奨(1チーム)、2等奨(2チーム)、3等奨(3チーム)の合計6チームにタオルセットと奨励状を授与しました。



安全教育セミナーの1コマ

三重工場の安全運転への取り組み紹介

三重工場では、日本興和損保(株)殿とNKSリスクマネジメント(株)殿の協力を得て、2012年4月に高校・大学の新社員および高齢者30名を対象に安全運転教育を実施しました。運転適性診断機を操作してもらい、その結果が、①速度見越反応検査、②重複作業反応検査、③処置判断検査、④運転適性レベルを含む運転適性診断結果票として発行され、自分の運転技術のレベルがすぐに分かる仕組みです。またその結果票に基づき個別面談が実施され、要点が説明されます。

実際にこの運転教育参加者からは、「自分は安全運転者だと思っていたが、診断結果とその後の個別面談で指摘を受け、自分の運転に過信していたことが分かった。適切なアドバイスをもらうことで、安全運転への認識を新たにできた。」といったコメントが上がっています。

この取り組み以外にも、2012年12月からは社有車を運転する前のアルコール検知器による呼気検査や2013年1月には製造1課の社員を対象にしたビデオ「あなたも今日からベストドライバー」と「飲酒運転の報い 破滅への道」を放映し、安全運転の自覚を促しました。

なお、安全運転教育は来期以降も実施し、全社員に受けてもらう計画です。



診断機を使用した実地教育

▶ 従業員とともに（成長支援）

改善提案制度

製品、業務効率、品質、安全性、生産性、技術等の向上と改善を図るため、「改善提案制度」を設けています。従業員の創意工夫、現場の目線を大切に、改善活動を評価するこの制度では、提出された提案すべてが評価・表彰（1次表彰）され、同時にその評価に対するポイント（2次評点）が付与される仕組みです。このポイントを累積して一定基準を超えるごとに、2次表彰が受けられる点が特徴です。

提案件数は、“当社製品の新市場の提案”や“製品カタログの表記方法の変更の提案”等、2012年度は11,871件にのぼり、引き続き、提案を奨励することで、単なる業務改善に留まらず、従業員の日々の観察力や自発性の向上にもつなげていきます。

■提案件数の推移と2次受賞者の数

	提出件数(件)	受賞数(名)
2010年度	10,454	331
2011年度	11,840	352
2012年度	11,871	331

リズム技能研修

T H K リズム浜松工場では、「無災害目標：390万時間」（延べ労働者数×所定労働時間）を掲げ、全社員目標達成に向け安全作業を心掛けています。

工場内作業に対する基本動作を徹底的に身に付けさせるため、新規採用者、社内異動や関係会社からの応援者の方々が新たに現場作業を行うに当たっては、敷地内にある「スキル工房」で右手と左手での作業役割分担の実習訓練を繰返します。

その成果もあり、これまで294万時間（平成25年3月31日現在）の無災害記録を継続しており、390万時間の無災害目標については、本年12月27日に達成予定です。

また、当社では国家技能検定試験の受験を推奨し、試験前にはこのスキル工房で実技講習会を

開催して試験本番に向けて腕を磨いています。技能検定資格者は延べ727名（2013年3月31日現在）に達しています。



手前：指導者 松本 佳三
奥：受講者 松本 博郁

eラーニング

社員教育の一環として、インターネット環境があれば、時間や場所を問わず社員が自己啓発のための学習が可能となるeラーニングを導入しています。主な内容としては「ビジネススキル」や「製品知識」等に加え、昨今重要視される「コンプライアンス」関連の内容を拡充しており、2013年3月現在で計43コースを受講することができます。

■eラーニング受講状況

	着手者状況			到達状況
	対象者数(人)	着手者計(人)	着手者率(%)	着手コース到達率(%)
2010年9月	2,103	1,142	54.3	72.7
2011年9月	2,130	1,212	56.9	73.1
2012年9月	2,049	1,192	58.2	73.2

研修制度

T H K では、次のような教育体系にて各種研修を実施しています。

階層別研修：新入社員から事業所・部門等を統括する階層に至るまで、そのレベルに応じて必要となる知識やスキルの教育を行っています。

部門別研修：営業・技術（開発・研究）・生産等に携わる社員の知識・技能の向上のため、専門知識や経験を持つ社員が講師となって教育プログラムを実施する仕組みを取り入れています。

上記研修に加え、OJT（職場内実習）の指導役を担う社員の指導力向上や、海外赴任者の語学・異文化理解の向上、法令遵守意識の向上等、様々な形で社員の教育育成に取り組んでいます。

■教育体系図

	階層別研修	部門別研修	特別研修
管理職	統括部長位研修 部長位研修 課長位研修	（営業） T H K アドバンス・プログラム ビジネススマイル教育	エグゼクティブ・プログラム コンプライアンス（法令遵守）教育 交通安全教育 海外赴任前教育
非管理職	課題設定研修 評価者研修 ステップアップ研修 新入社員研修	技術者基礎教育 社内技能検定	eラーニング OJTトレーナー研修 プロダクトトレーニング（製品知識） 交通安全教育

▶▶ 従業員とともに (多様な働き方)

障がい者雇用への取り組み

T H K では本社・工場部門において障がい者雇用を推進しており、2013年4月1日時点の雇用率は2.01%と、本年4月1日に引き上げられた法定雇用率2.00%を上回っております。

また、障がい者がより円滑に就労できるよう職場内外の支援ならびに就労環境を整える専門資格「第2号職場適応援助者(第2号ジョブコーチ)」を2012年9月に岐阜工場の社員が取得し、既に資格を取得している山口工場の社員と2名で支援体制の強化を図っております。具体的な取り組みとして、年に1回各事業所を訪問し、職場での就労状況および体調の確認等を行い、障がい者本人と上長との面談を実施し、働きやすい環境づくりのサポートを行っております。

また、山口工場受注管理課の藤井将大が2012年10月長野で開催された「アビリンピック2012」の「製品パッキング部門」で金賞を受賞し日本一の

栄誉を獲得しました。前回大会も山口工場の社員が金賞を受賞しており2連覇となり、職場外での活躍にも目をみはるものがあります。

なお、「障がい者雇用優良事業所」並びに「障がい者の雇用の促進と職業の安定に貢献した個人」として、2012年11月に厚生労働省所管である「独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構」より、以下の表彰を受けております。

【表彰対象および受賞内容】

- ① 山口工場
事業所表彰
- ② 山口工場製造推進部環境教育課(兼)人財課(障がい者雇用推進担当)／吉永俊介
個人表彰

■障がい者雇用率推移 (%)

2009年12月	2010年12月	2011年4月	2012年4月	2013年4月
1.64	1.70	1.80	1.89	2.01

VOICE ▶▶▶ 個人表彰受賞者の声



平成24年度優秀勤労障害者
理事長努力賞表彰式
左:山村 勝則(工場長)
右:吉永 俊介(筆者)

私は2011年2月に障がい者の雇用推進にあたり障がい者が円滑に職場に適應できるように、また、職場環境の改善・調整等の支援を行えるよう、第2号職場適応援助者(第2号ジョブコーチ)の資格を取得しました。なお、2012年9月に岐阜工場の社員がこの資格を取得するまでは支援活動も限られたものでありましたが、現在は2人体制となったことにより全国の事業所で障がい者との定期的な面談ならびに特別支援学校からの職場実習生の受け入れ推進等、幅広い活動を行っています。

2013年度中には更に本社で1名が同資格を取得予定で、それにより西部、中部、東部地域でのタイムリーな支援体制の構築を目指しています。

また、2012年度はアビリンピック2012の「製品パッキング部門」でT H K 社員の2大会連続優勝、スポーツ部門では、全国障害者スポーツ大会(ぎふ清流大会)の「フットベースボール」競技への参加等、多岐にわたり障がい者の方が大いに活躍されました。

今後は、各事業所で選任された障がい者の支援者(障害者職業生活相談員)の教育・育成を行い、全社レベルで障がい者の支援体制の構築を積極的に進めていきたいと思っています。



第33回アビリンピック長野大会
日本一の瞬間
右:藤井 将大(金賞受賞者)
左:吉永 俊介

永年勤続表彰

T H Kは永年勤続表彰を行っております。対象を10年毎とする企業が多い中、より多くの社員に対し永きにわたる会社への貢献を表彰したいという思いから、5年毎に表彰を実施しています。2013年度は744名が受賞し、記念品が贈呈されました。また、T H Kでは初の40年受賞者が誕生しました。

■永年勤続表彰受賞者数推移 (2009～2013年) (名)

勤続	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年
40年	0	0	0	0	1
35年	6	10	11	14	17
30年	16	25	23	69	120
25年	91	139	129	54	85
20年	107	143	163	128	96
15年	43	146	177	92	167
10年	74	77	113	68	81
5年	104	84	167	161	177
合計	441	624	783	586	744

ボランティア休暇制度

ボランティア休業・休暇制度の制定にあたって、基本的には短期でのボランティアを想定(社会的弱者に対する福祉、災害支援、地域貢献、青少年育成等)し検討を始めたものの、当社では国際的な事業展開を行っていることも踏まえると、国内における短期のボランティア活動だけではなく、海外での長期ボランティア活動についても積極的に支援できるような制度とすることも大変有効ではないかと考えました。当休暇制度の制定により、社員としての資格を有したまま、例えば青年海外協力隊の活動のようなものに専念できるようになります。特にそのような活動は、仕事では経験しがたい学びや新たな気づきがあること、それがひいては、今後のより一層のグローバル展開を押し進める当社の職務を遂行していくうえで必ずやプラスになるものと考えております。

VOICE >>> ボランティア休暇取得者の声



IMT事業部 EA技術部
清野 遥

2011年に発生した東日本大震災では、両親が福島県出身ということもあり、「何かしたい」という思いから、東北でのボランティアに参加しました。

私が住んでいる大田区では、宮城県東松島市と災害時相互応援協定を結んでおり、週末(金～日曜日)ボランティアコースに、2012年2月から4回ほど参加しました。実際に被災地の様子を見て、また、被災された方々と話してみても、まだまだボランティアの力が必要だと感じ、2012年6月にボランティア休暇を5日間取得して今度は1週間コースに参加しました。この時の活動内容は、東名(とうな)地区での除草作業と物資運搬支援でした。津波被害で一部廃線になってしまったJR仙石線の線路脇の草を取り、小中学生用の通学路を作りました。この地域の子供達にも笑顔が戻り、今ではあちこちから子供たちのはしゃぎ声が聞こえてきて大変嬉しく思います。

現在も1～2ヶ月に一度週末コースに参加しています。ボランティア休暇を実施していない企業も多いようで、休暇を取得した話をすると他の参加者から羨ましいと言われることが多々あります。

被災地の復興は、思ったほど進んでいません。3.11から2年半経ちますが、今更ボランティアなんて・・・と思わずに、皆さんも身近な活動に参加し被災地の方々との交流を深めてみてはいかがでしょうか。



津波被害を受けた線路



除草後の通学路

▶ 従業員とともに (地域社会)

寄付・募金活動

T H K は社会貢献活動の一環として、自然災害発生時の支援金の提供を行っています。また、将来の日本のものづくりの発展に向けて、科学振興を目的とする団体への賛助金の提供、T H K の拠点がある地域の催事への協賛を行っています。

■災害時支援金

H24.8	大分県大雨災害義援金	日本赤十字社(大分支部)
H24.8	福岡県豪雨災害義援金	日本赤十字社(福岡支部)
H24.8	熊本広域大水害義援金	日本赤十字社(熊本支部)

■賛助金等

H24.4	新日本フィルハーモニー交響楽団特別会員	新日本フィルハーモニー交響楽団
H24.8	公益財団法人日本科学技術振興財団賛助金	公益財団法人日本科学技術振興財団賛助金
H25.3	緑の募金	山口県土緑化推進委員会

クリーンビーチへの参加 (インテックス三島社員が参加)

2012年7月14日に地元NPO法人三保の松原・羽衣村主催の静岡市清水区にある「美保の松原」の海岸清掃活動が行われることをインターネットで知り参加しました。

当日の天気は快晴。AM9:00から約2時間、約15名で海岸のゴミ拾いや草刈りを実施しました。結果、30袋のゴミが集まりました。

三保の松原は、駿河湾を挟んで望む富士山の景色がきれいな所有名な海岸で、2013年6月22日には、富士山と同時に世界文化遺産に登録されました。清掃後に見た富士山は格別美しく感じました。

今回は個人で参加しましたが、来年以降は周囲の人にも声をかけ地域社会活動を行ってきたいと思っています。



三保の松原清掃活動

遼寧工場社員による金狐山のゴミ拾い活動

2012年5月5日にT H K 遼寧の社員22名は、保稅区慈善總會と共同で主催した大連金石灘にある金狐山の登山道のゴミ拾いを行いました。残念なことに、一部の登山者は環境保護の意識が薄く、登山道にゴミを捨てる等の行為をしています。そこで今回、環境美化を目的とし登山道のゴミ拾いを開催しました。

参加者は「写真とゴミ以外、何も持って帰らない」というスローガンの下、活動を行いました。当日は飛び入りで一部の観光客の方が私達の活動に賛同してくれ、一緒にゴミ収集作業を行ってくれました。

今後も機会を作り、積極的に環境保護活動に参加していきたいと思っています。



金狐山のゴミ収集活動参加者

出前授業

ものづくりの素晴らしさや日本の機械業界を支える部品作りの現状を伝承するために、T H K では出前授業を2012年度は全国8校の高等学校で開催しました。一部の高校では出前授業と工場見学を併せて行い、現場を見学することで製造業に対する理解を更に深めてもらいました。



三重県立松阪工業高校校内新聞にて紹介
 円内:左 応用技術統括部 長友 理恵
 右 三重工場 藤田 正美

長岡まつりへの協賛(長岡支店)

長岡支店有志6名は2012年8月1日～3日にかけて開催された長岡まつり初日に、神輿担ぎとして参加しました。2日、3日は有名な花火大会です。

長岡まつりは1945年8月1日に発生した長岡空襲の慰霊の願いを込めて昭和21年から始まったお祭りです。長岡市内の町内会から祭りの神輿担ぎのお誘いを頂き、日頃の運動不足解消も兼ねて喜んで参加致しました。

当日は約5万人の見物客が集まり(祭り全体では約90万人)、長岡市中心部を各町内会の神輿が行き交い、大変な盛り上がりになりました。神輿担ぎの体験により、祭りの歴史や情熱を肌で感じることができ、また地域の皆様と心をつなぐことができました。今回のような地域活動に今後も積極的に参加し、社会貢献を積極的に行っていきたいと思います。

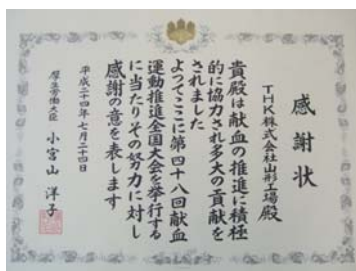


神輿担ぎ手

山形工場献血活動で厚生労働大臣表彰を受ける

2012年8月に山形工場は「献血運動推進協力団体等厚生大臣表彰」および「献血功労団体等知事感謝状」を受領しました。

山形工場は1991年の工場設立当初から継続して企業献血活動に参加しており、年2回個人の希望により200ml又は400ml献血を実施してきました。この活動が評価され、今回東根市の推薦を受け、厚生労働大臣からの表彰となりました。



厚生労働大臣からの感謝状

山形工場が消防庁消防団協力事業所表示証を交付される

山形工場は、2012年2月に消防庁より消防団協力事業所表示証の交付を受けました。これは約650名の社員中80名が地元の消防団に登録しており、火災・水害・雪害等の災害発生時に本人申請により有給扱いとして消防団活動への参加を認めている事が評価されたものです。

実際の活動内容は各地域の各消防団分隊によって様々ですが、家屋火災の消防、人の捜索、大雨時の河川の水防、山火事の初期消火、各隊における消防訓練や消防大会への参加等が挙げられます。

昨年は会社出勤時で7回、プライベートでは44回の消防団活動出勤が報告されております。

今後も、個人の地域に密着した活動を後押しし、会社としても地域貢献に寄与する体制に勤めてまいります。



消防団協力事業所表示証

遼寧工場社員による古着を集めての寄付活動

T H K 遼寧工場では2013年2月に「感動中国十大人物」の2012年受賞者である高淑珍さん※が経営している慈善学校へ寄付活動を行いました。

工場の方々に呼びかけて集まったのは、200着以上の服、約2,000本の鉛筆、約1,000冊の本等です。

思いやりの心を込めて集めた物です。障害を持った子供達が喜び、希望を持ってくれればと思います。

※ 高淑珍さん：

56歳の農村婦人で、1998年4月から自分の家屋を学校とし、身体障害のため学校に行けない子供を預かっています。この14年間に、無償で約100名の障害者に教育の場を与えました。



集まった善意の古着